

ビットが存在する。溝状遺構はその切り合い関係により、少なくとも三時期にわたり形成されたものと推定している。

第一調査区からは大溝を含む十二条の溝状遺構を検出した。遺構からは杭をはじめ曲物の底板・板状木器・土器片等が出土している。特に、一号溝と七号溝（大溝）が近接する付近一帯には多量の杭や木材が集積しており、大溝からの取水施設の存在が考えられる。また、第四調査区で検出した十三号溝は、覆土層が単一であることや溝上面から勾玉・横瓶・甕等が一括出土していることなどから、当溝を廃棄する際に、溝埋めの祭祀が行なわれたことが窺えるものである。

以上のように、検出した遺構・遺物からはいまだ南吉田葛山遺跡の性格について多くは語れない。しかし、今後の整理作業を通して検討を重ねてゆきたいと考えている。

8 木簡の积文・内容

「南无阿弥陀佛

(410)×42×5 001

(浜野伸雄)

訂正とお詫び

『木簡研究』第三号の「一九八〇年出土の木簡 石川・白山橋遺跡」に掲載致しました四五頁の図版の説明「白山橋遺跡 一号土壙」は「桜町遺跡 一号土壙」の誤りでした。ここに訂正するとともに執筆者・読者各位に深くお詫び致します。

岡山・百間川遺跡群（原尾島遺跡）

ひやつけんがわ

- 1 所在地 岡山県岡山市原尾島
- 2 調査期間 一九七九年（昭54）四月～一九八一年（昭56）四月
- 3 発掘機関 岡山県教育委員会
- 4 調査担当者 岡田 博・島崎 東
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晩期～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は旭川放水路（百間川）改修計画に伴う事前発掘調査が行われている、百間川遺跡群に存在する。この遺跡群中、もっとも上流



（岡山北部）

に位置する通称第一微高地・原尾島遺跡では、弥生時代前期から古墳時代にかけての数多くの遺構が検出されている。これらに伴う出土遺物も土器・木製品・金属器・玉類・鏡など質量共に豊富である。遺構の中では、と